

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の平成30年度第4回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 平成31年2月28日（木）14：00～15：10

会 場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

平成30年度第4回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

平成30年度第4回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 平成31年2月28日(木) 14:00～15:10

会場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

3 出席委員(五十音順)

今泉 恵子、田籠 亮博、中尾 美佐、松田 亨、森江 由美子

4 議事

(1) 平成30年度第3四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 平成30年度第3四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、平成30年度第3四半期に契約をした工事の中から、今泉委員長が10件(契約課契約分8件、上下水道橋契約分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 総合評価、一般競争入札による土木工事だが、随意契約に移行した案件であるためその経緯を知りたい。

(答) 落札者決定の翌日、落札業者から当該工事に配置する予定だった技術者が、先行して入札が行われた別の工事に既に配置されていたため、今回の工事に配置できないとの届出があり、落札決定を取り消すことになった。このような場合には、次順位の業者と随意契約の交渉をすることになるが、当該業者は同じ日に開札した別の案件を落札していたため、さらに次順位の業者と交渉するに至った。随意契約に移った際には、最初に落札した業者の落札金額の範囲内で契約を行わなければならないが、最終的にこの業者と金額の範囲内で契約することができた。今回は契約事務に支障をきたす事態になったため、今後は技術者が配置できなくなった場合には、落札決定日の前日までに届出を行うように、業者にはホームページで周知した。

(問) 総合評価、一般競争入札による建築工事で、落札率が、96.76%と高く、予定価格の割には参加業者数が少ないので詳しい入札状況を知りたい。

(答) 桃園市民プールの新築工事で、一般競争入札により広く参加者を募ったが、結果として4者の参加にとどまった。参加者が少なかった理由としては、大規模な工事であるため資金力があること、高さが15メートルと空間が大きな建築物であるため比較的高い技術力が必要だったことが考えられる。入札では、

応札金額が低い業者もあったが技術点が低かったため落札には至らず、金額は比較的高かったが技術点が高い業者が落札した。よって、落札率は高くなったが、工事の品質は確保できたと考えている。

(問) 技術点が低い業者と高い業者と比べると、かなり点数に開きがあるが、点数はどのように決められるのか。

(答) 技術提案などによるものであり、例えば高所作業がある場合には、どのように作業員の安全を確保するかといった具体的な提案を求めており、提案が有効なものであれば点数が高くなる。工事ごとに求める提案内容は異なる。

(問) 落札した業者が提案どおり実施しているか、確認はしているのか。

(答) 現場できちんと確認しており、実施していなければ工事成績を減点している。

(問) 一般競争入札による電気工事で、比較的参加業者が多いにも関わらず、落札率が98.88%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 競争があったことは応札金額からも見てとれるが、ランダム係数が最大であったため、結果、落札率が高くなったと考える。ランダム係数についてはこれまでも議論してきたところであり、その必要性についてはご理解いただきたい。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名業者が50社と多い割には落札率が99.46%と非常に高いため、特殊性があったかなど詳しい入札状況を知りたい。

(答) 当案件は10月に入札を行ったが、これに先立って9月にも一度入札を行っていた。当初は小倉南区のCDランク24者を指名していたが、1者しか応札がなかったため入札不調になった。再度入札では、門司区と小倉北区を加えたCDランク50社を指名したが、応札は2者にとどまり、結果、予定価格に近い金額での落札となった。当該道路では平成25年度と26年度に規模は違うが工事が行われおり、その落札率を見るとかなり競争が働いていたと思われる。よって、今回の工事は特殊性があるとは考えないが、予定価格の割には時期的に車両通行の制約があるなど配慮が必要であり、業者としては工事施工条件が厳しかったことから、応札意欲が高まらなかったのではないかと推察している。

(問) 一般競争入札による電気工事で落札率が57.98%と非常に低くなっているため、適正な予定価格の積算が行われていたかを含め、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 今回の工事は、直接工事費に占める工場製作物の割合が大きかったため、最低制限価格を設定しなかった。予定価格は適切であり、企業努力が働いた結果と考えている。

(問) 指名競争入札による電気工事だが、工事場所が類似施設で指名業者も同じ6者であり、いずれも落札率が高いことから詳しい入札状況を知りたい。また、他の電気計装工事でも落札率が軒並み高くなっていることから、全体的な傾向などがあれば説明をしてもらいたい。

(答) 非常用発電機の更新工事は、機器のメーカー、販売店、特約店しか作業ができないため、指名業者はこの6者に限られている。落札率については、平成3

0年度の他の工事も含め検証したところ、確かに90%台のものが多かったが、中には60～70%台のものもあった。落札率が高いものと低いものに分かれるのは、最低制限価格を設けるか設けなかに依るのではないかと推察され、最低制限価格がない場合には企業努力が働き、ある場合にはこれを下回ると失格になるため、それを懸念しながら応札する傾向があるように思われる。

(問) 指名競争入札によるとび・土工工事で落札率が99.91%と非常に高いため、詳しい入札状況を知りたい。また、予定価格の割には指名業者数が少ないため、もっと業者数を増やす等考えられなかったかも説明してもらいたい。

(答) 予定価格が6千万円以上工事であるため特定建設業許可を持ち、法面工事ができる業者10者が選定の対象となった。そのうち1者は市外業者で手持ち工事があり、1者はキャリア不足のため施工は難しいと判断し、8者を指名することとした。結果、4社が辞退し、応札金額が同額になった2者のくじ引きとなった。当該工事では墓地の掘削を伴い、業者としてはやりづらい点があったため、ほぼ予定価格での落札につながったのではないかと考えている。一般的には、法面工事は競争が激しく、落札率が低い傾向にあることから、指名業者数自体は少ないが、競争性は確保されていると考えている。

(問) 指名競争入札による同じ防水工事だが、保育所では落札率が99.01%と非常に高いが、小学校では91.28%にとどまっているため、これらを対比させ詳しい入札状況を知りたい。

(答) 平成30年度における他の小学校の防水工事の落札率は90～91%台であり、保育所はほかに1件しか対象がなかったが、落札率が100%であった。保育所は敷地が狭く、小さい子供に対する安全面の配慮が特に必要であることから、敬遠されがちなのではないかと考える。

(問) 一般競争入札による機械器具工事で、落札率が99.05%と非常に高いが、予定価格が1.6億円超えにもかかわらず、参加業者が7者と少ないため、競争性が保たれていたかを含めて詳しい入札状況を知りたい。

(答) ポンプ場での工事であり、一般競争入札で広く参加者を募ったが、結果として2者の応札にとどまった。ほかのポンプ場の工事では落札率が89.3%と低かったことから、ポンプ場ごと条件が違ふと考えられ、推察ではあるが、当該案件において業者にとって何かやりづらい面があり、参加者が少なくなったのではないかと考えている。

(問) 指名競争入札による規模が似ている管渠築造工事で、両者の落札率に開きがあることから、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 落札率が高い方の工事では、ランダム係数が中間値より高く、もう一方の工事では中間値であった。これが落札率に影響を与えたと考えられる。

※ 次回の委員会は、平成31年5月30日(木)に開催することとなった。